

20年目を迎えた「わが村は美しくー北海道」運動に想う

今井 幸世 (いまい さちよ)

一般社団法人しりべしツーリズムサポート事務局長

20年の活動、今回は第10回目となるコンクール。節目を迎えるにあたり、小樽ブロック調査員として4回参加した経験からの成果や課題、今後に期待することを考えていきたいと思います。

《新しい活動に期待》

「わが村は美しくー北海道」は、地域資源を活かした住民主体の活動に光をあて応援し更なる飛躍のきっかけとなるようにと始まった運動です。近年の北海道は地球温暖化や気候風土の変化の影響もあって、避暑地としてや食料庫的な役割も大きくなっているように思います。

豊富な農水産資源は北海道の誇るところでもあります。さらに改良、栽培技術の進歩もあって珍しい野菜や果物を目にすることも多くなりました。有機や自然栽培に積極的に取り組んだり、試験栽培が活発に行われたり、新しい価値観を持ったUターンやIターンの若者が増えてきたことも一次産業への新たな幕開けを



農場開放祭 余市

新規就労の若い世代が数年前から始めたイベント。普段は立ち入ることができない農場を見学しながら、この畑の葡萄を原料としたワインを試飲します



感じます。

後志のワイン用^{ぶどう}葡萄生産現場では、特区化が広がったことで原料生産だけにとどまらず、醸造家として活躍し、世界的評価をいただく方も出てきました。若手醸造家達は志おなじ者同士として盛んに情報交換や交流を行い、個々のクオリティやオリジナリティの向上に^{けんさん}研鑽を積み、^{せつ さく ま}切磋琢磨していて、今後も世界に注目される醸造家やワインが続々と生まれるのではないかと期待も高まります。

古くからの営農現場では作業の機械化も進んでいます。後継者不足や人手不足はありますが、六次産業化に取り組む方々も増えてきました。

六次産業化によって直接的な顧客とのつながりを意識し商品開発が行われています。さらに顧客満足度を上げるブランディング力がもっと磨かれても良いと思



イベント中の農園目印

広大な葡萄畑や傾斜地からの景色など様々な風景を楽しみながら巡り歩きます

います。これからの六次産業化に必須なのは都市圏の方々を^{うな}唸らせる、満足を提供する表現力、デザイン、宣伝力ではないかと思います。

《小樽ブロック調査員として感じたこと》

「わが村は美しく－北海道」運動は地道に続く活動に光をあて応援するということで、活動団体にとってはモチベーションが上がることであるのですが、応募に際してコンクールの知名度の低さもあり自発的な応募は少ないように思います。応募の現状は役所から役所へのトップダウン的でもあります。また、受賞対象となったとしても受賞後のメリットや効果、成果が分からない、感じられないというのが受賞団体の正直な気持ちではないでしょうか。

年々、高校の応募も増えていますが、彼らにも多種多様なコンクールに参加している現状があり、プレゼンテーション力を上げる場数の場としか捉えられないのではないかと危惧しています。

《地域と都市の関わりを紡ぐストーリーを》

北海道には豊かな農水産資源のほかに広い大地、四季折々の景色はもとより、素朴な北海道人気質は都会の人を魅了する力があります。

コンクールでの受賞が地域と都市との新たな^{つな}繋がりを作り、都市と地域が紡ぐストーリーが生まれると面白そうです。

例えば、前回の第9回では小樽ブロックから真狩高校が大賞受賞となりました。村の中にケーキ屋さんがないことから毎年、村民へのクリスマスケーキ販売を

行っています。一方、都市圏では核家族化やブームも有って日持ちする「シュトーレン」の人气が急上昇していますので、彼らの技術や若い感性で個性ある「後志シュトーレン」「真狩シュトーレン」を作ることには可能ではないでしょうか。地域素材を生かした商品が村と都会を繋げます。田舎から都会への手作りのプレゼントです。人の温もりある交流が生まれます。

8回目の調査ではカラフルなとうきび「虹色とうきび」の試験栽培に取り組んでいた農業後継の青年がいました。インスタ映えするカラフルさは新たな活用策を提案するクリエイターと繋がらないでしょうか。地域の小さな「MoveをStoryに」。

実施主体も調査員も審査員も評価、表彰だけでなく地域のお役に立てるイメージを持って関わっていくべきかと思います。関わり方を1歩進めてはどうでしょう。

このコンクール受賞を機に新たなMoveやStoryが生まれたとしたら関わる私達も嬉しいですし、皆さんもワクワクしませんか。



虹色とうきび
食用には向きませんが、カラフルな色合いに思わず「うわ～綺麗！可愛い！」



第9回コンクール小樽ブロック表彰式にて大賞受賞の真狩高校の皆さん